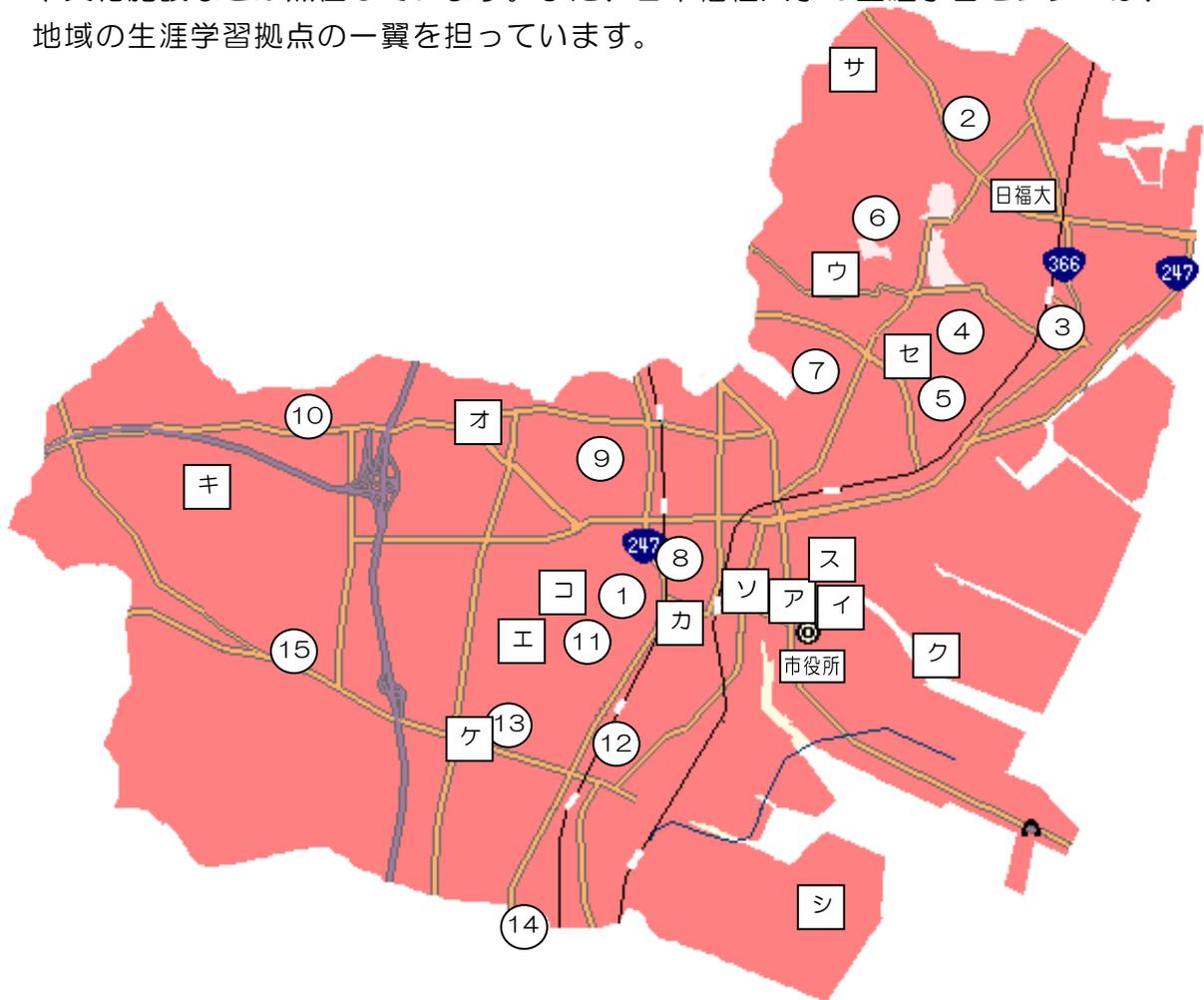


## 第2章 本市の現状

### 第1節 本市の生涯学習拠点施設

知多半島の中核都市である半田市の人口は 119,884人（令和2年4月1日現在）であり、多くの市民が日常生活の中でさまざまな学習活動や市民活動等を行っています。

市内には中央公民館をはじめ、14の地区公民館、図書館、博物館、体育施設や文化施設などが点在しています。また、日本福祉大学の生涯学習センターは、地域の生涯学習拠点の一翼を担っています。

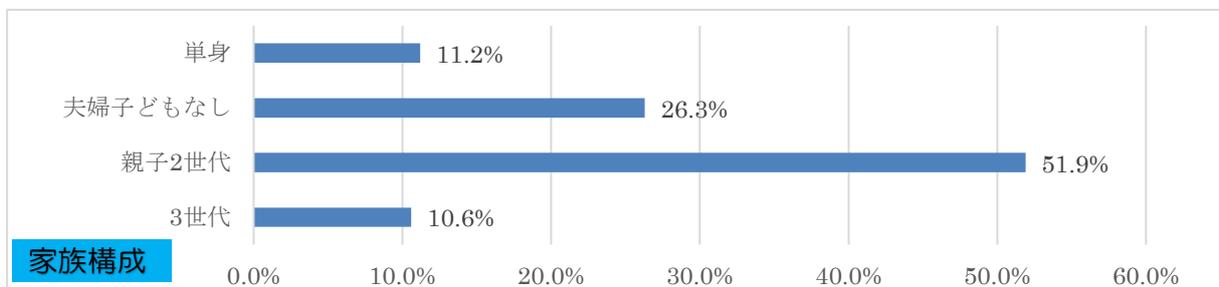
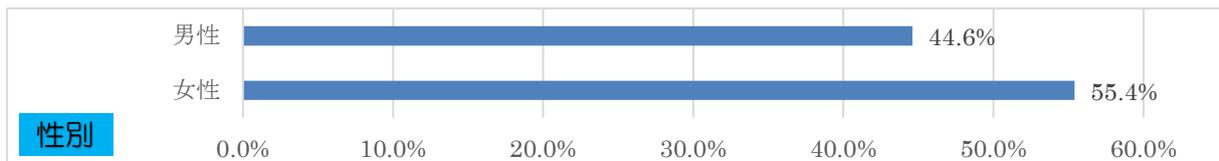
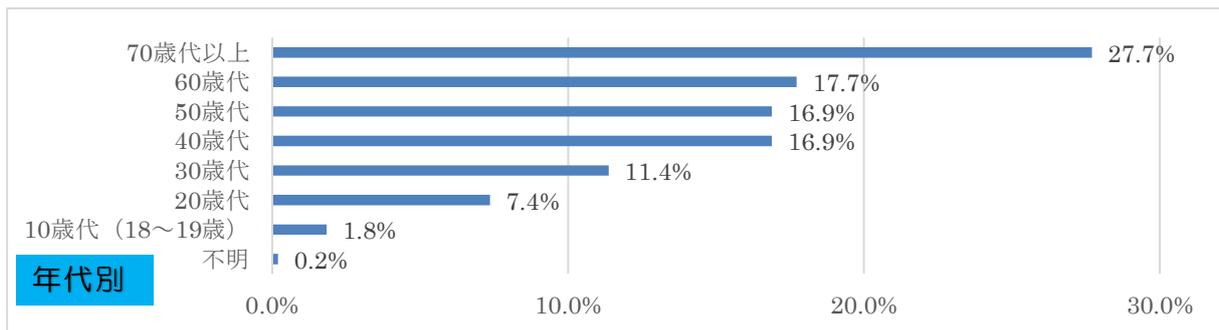


- |  |  |  |  |
|--|--|--|--|
| <公民館> ① 雁宿ホール・中央公民館      ② 有脇公民館      ③ 亀崎公民館・図書館(亀崎)      ④ 平地公民館<br>⑤ 向山公民館    ⑥ 上池公民館    ⑦ 乙川公民館    ⑧ 住吉公民館    ⑨ 岩滑公民館    ⑩ 修農公民館<br>⑪ 協和公民館    ⑫ 成岩公民館    ⑬ 西成岩公民館    ⑭ 神戸公民館    ⑮ 板山公民館   |  |  |  |
| <その他> ア アイプラザ半田      イ さくら小学校生涯学習施設      ウ 横川小学校生涯学習施設<br>エ 図書館(本館)・博物館・空の科学館・体育館      オ 新美南吉記念館      カ 市民交流センター<br>キ 運動公園      ク 福祉ふれあいプール      ケ 青山記念武道館      コ 半田球場<br>キ 北部グラウンド      シ マリングラウンド      ク 上浜グラウンド<br>セ 乙川交流センターニコパル      ソ 半田市鉄道資料館 |  |  |  |

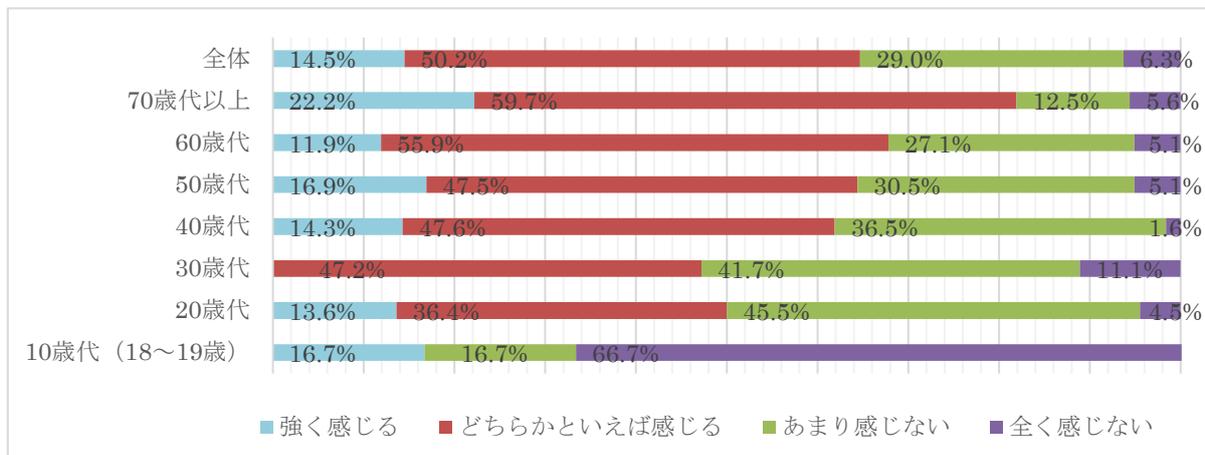
## 第2節 市民の生涯学習に関する意識

生涯学習に関する市民意識の現状を把握し、計画のさらなる推進を図るため、令和元年11月に、「半田市生涯学習に関する市民アンケート調査」（18歳以上90歳未満の市民2,000人を抽出、回答数598、有効回答率30.0%）を実施しました。

### アンケート回答の年代別・性別・家族構成の割合



### 生涯学習の必要性 (単位 %)



この結果からみる市民の生涯学習に関する意識は次のようになります。

**回答の年齢構成と生涯学習の必要性について**

回答の年齢の割合は、60代以上が45.4%と多く、高齢者の生涯学習への関心は高いといえます。また、親子2世代での家族構成が多く、親子3世代で生活している家族は10.6%と低いことがわかります。

平成27年度の調査結果では、生涯学習の必要性としては、「だれでも生涯にわたって必要」という考えの市民が45.2%「必要と思う人がやればよい」という考えの市民は、38.8%でした。今回の調査では、日頃から生涯学習の必要性を感じていますかという問いに、「強く感じる」「どちらかといえば感じる」と答えた市民は64.7%であり、生涯学習の必要性の認知は高くなったといえます。逆に「あまり感じていない」「全く感じていない」と答えた市民は36.3%でした。

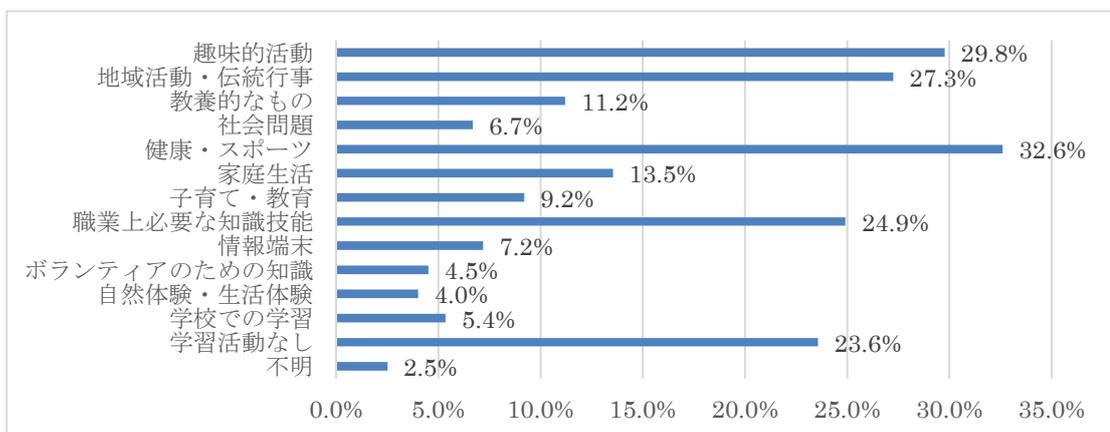
今回の調査結果を分析すると、「生涯学習の必要性」を感じ取っている年代は、50代以降歳が上がるにつれ意識が高くなっており、第2次半田市生涯学習推進計画の効用があったと思われます。生涯学習の必要性を感じ取っている年代には引き続き、生涯学習の推進を図る一方で、「生涯学習の必要性」をあまり感じとっていないと答える40代に至るまでの年代に、幅広くより一層生涯学習の推進を図っていくことができるよう、学びの応援体制を整えることが必要であります。

**学習への参加と目的について**

学習への参加をしていると答える市民は、今回の調査で、76.4%を示し、市民の多くが日常生活の中で何らかの学習や活動を行っているといえます。内容的には、「趣味的な活動（音楽・美術・書道など）」「健康・スポーツ（健康法・ジョギング・栄養など）」に参加する市民が多く、平成27年度調査では8.1%であった「地域・コミュニティー」の活動が、「地域活動・伝統行事」の参加として、27.3%と増加しているのがわかります。市民の目がより地域活動・伝統行事に向いてきていると言えます。また、「家庭生活」「子育て・教育」への活動の参加も多くなってきています。

★「あなたはこの1年間で下記のような学習や活動をしたことがありますか」

(複数回答)



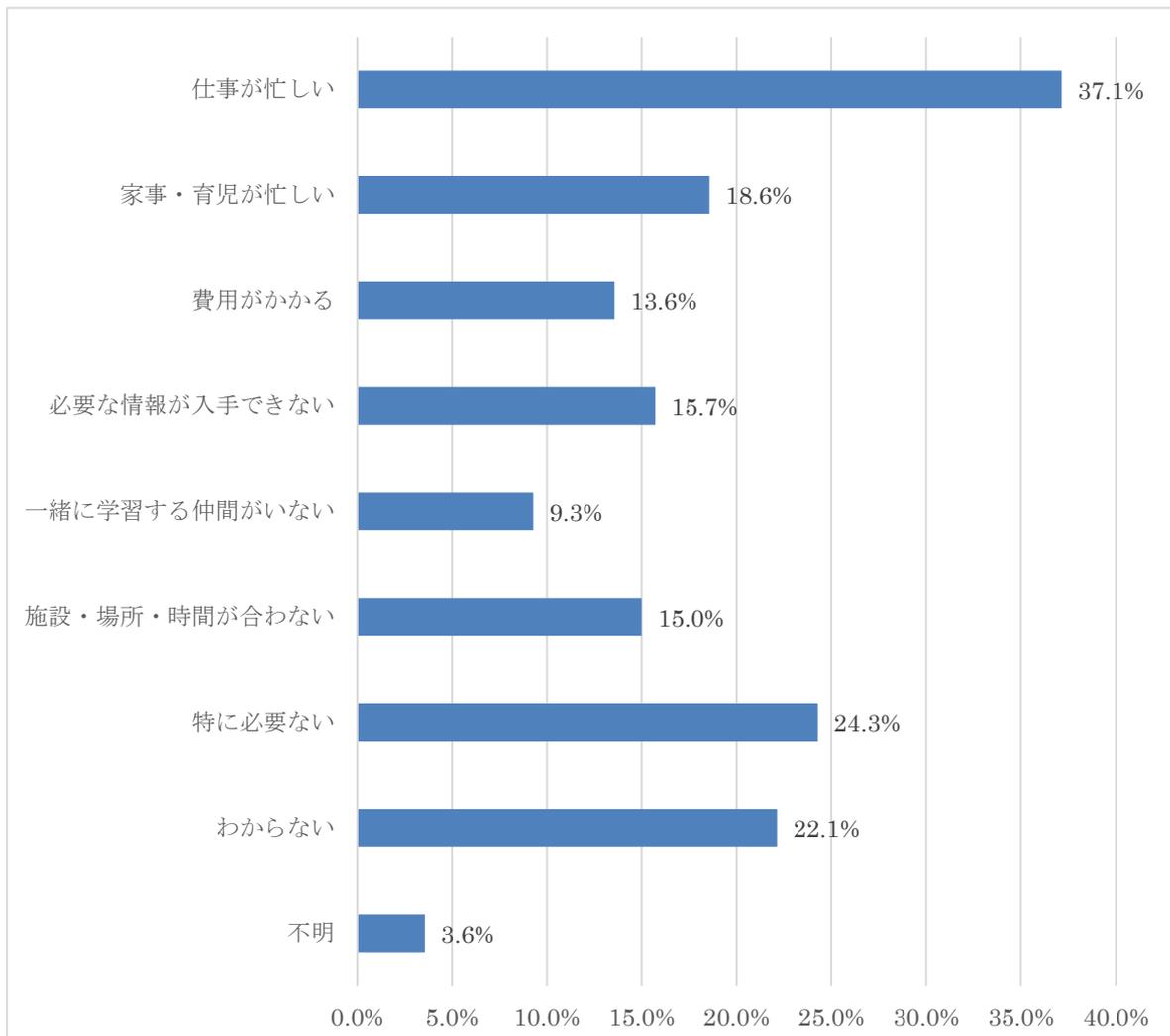
**学習への不参加の理由について**

学習への不参加の理由は、「勉強・仕事・家事で忙しい」が平成27年度調査の38.9%から、今回の調査では「仕事が忙しい」の項目だけで37.1%と高く、また「育児・介護で外出しにくい」が7.6%から、「育児・家事で忙しい」と答えた市民が18.6%と高くなっています。勉強・仕事・家事と学習への参加の両立が、時間的余裕のなさから難しいと感じている市民が多いと思われます。

時間的な余裕のない中で、学習に目を向かせることや、ライフスタイルに合わせて学びができる環境づくりを今まで以上に考えていく必要があります。

「学習をしていない理由」として、平成27年度調査で30.7%を占めた「場所を知らない」という課題は、より多くの情報を市民に提供してきた結果、「必要な情報が入手できない」15.7%・「施設・場所・時間が合わない」15.0%と改善されつつありますが、今後も情報提供の充実を図る必要はあると言えます。

★「学習や活動をしていない理由は何ですか」（複数回答）



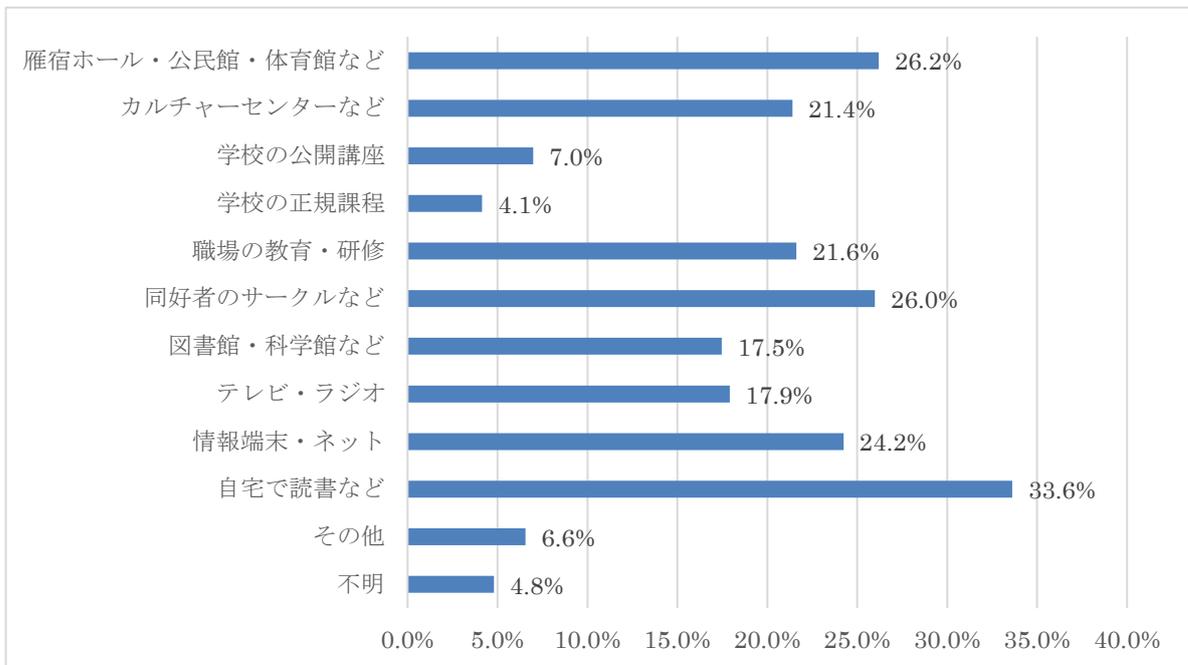
学習活動の場所や学習形態の結果について

情報提供の充実により、「雁宿ホール・公民館・体育館」などの公共施設を学習活動の場所として利用している市民が、26.2%と高い結果でした。年代別で見ると、年代が上がるにつれ高くなり、60歳以上の利用が格段に高く、高齢者にとっては、生涯学習の拠点として公共施設が根付いてきたといえます。

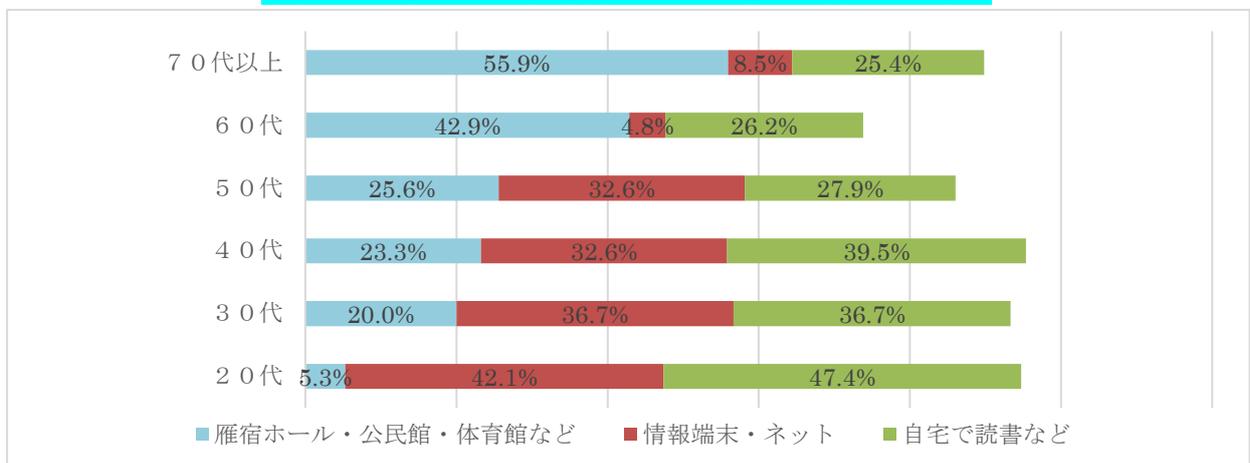
反対に、20代から40代に至るまでの学習形態としては「情報端末・ネット」や「自宅で読書など」の割合が高く、自宅にしながら学習するケースも多いといえます。

今後、在宅でもできる学びの環境を整えていくことも、生涯学習の推進のために必要だといえます。

★「どのような場所や形態で学習活動をしたことがありますか」（複数回答）



年代別に見る 主な場所および形態（単位 %）



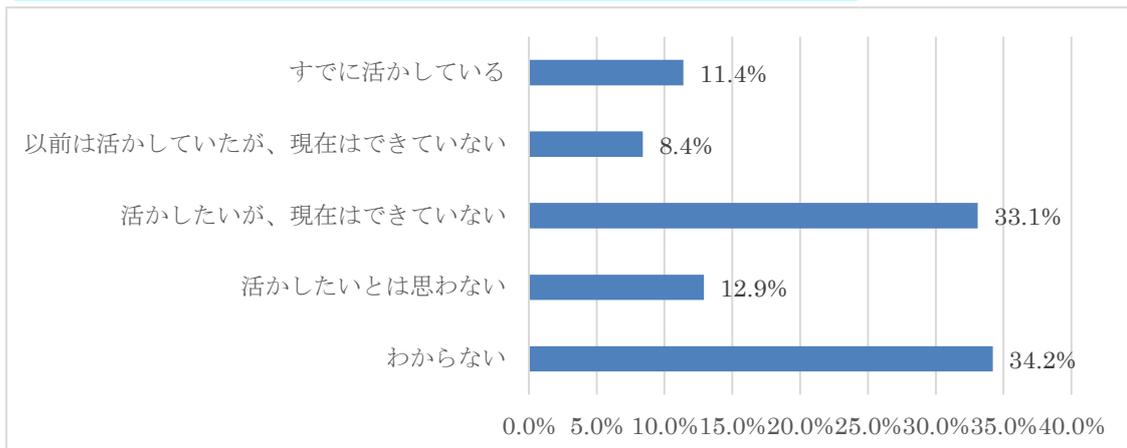
**学んだことを、地域や社会での活動に活かしていきたいかの結果について**

平成27年度調査で、「学んだことを周りの人に伝えたり、それらを活かして活動したりすることはあるか」の問いに、「意識しない・不明」が54.2%と半数以上でした。今回の調査では、「活かしたいと思わない・わからない」と答えた市民が47.1%となり、学んだことを、地域や社会での活動に活かしていこうと考える市民が若干増えていることがわかります。

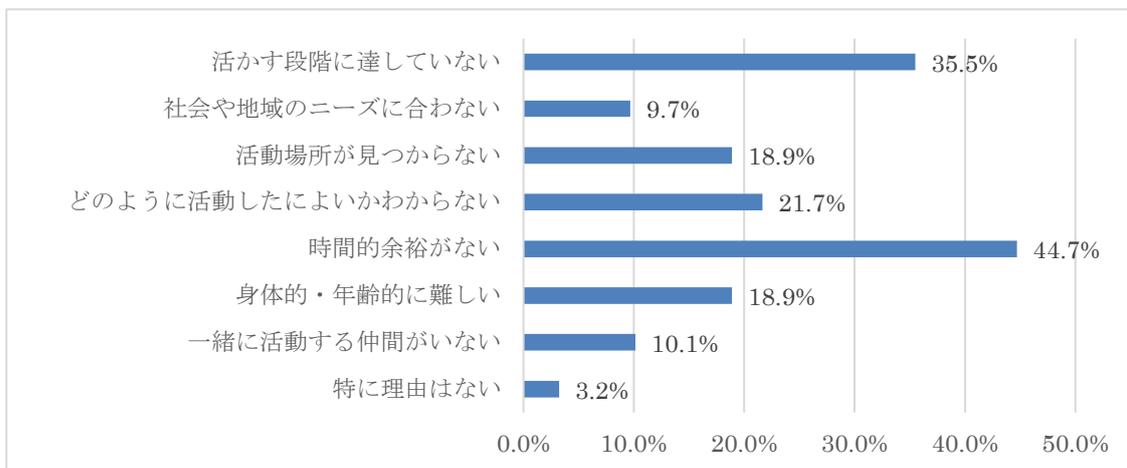
しかしながら、「以前は活かしていたが、現在はできていない」「活かしたいが、現在はできていない」と答える市民が、41.5%と高く、学習成果を社会に還元することができていない現状であることがわかります。

「以前は活かしていたが、現在はできていない」「活かしたいが、現在はできていない」と答えた市民の理由は、「活かす段階に達していない」が35.5%「活動場所が見つからない」18.9%「どのように活動してよいかわからない」21.7%となっており、市民の意向に即した実践的な学習講座の開催やその学習成果を発揮する機会、情報提供の仕方の支援策を考えていく必要があります。

★「学んだことを、地域や社会での活動に活かしていきたいか」



★「学んだことを、地域や社会での活動に活かすことできない理由」



「ゲストティーチャー」制度の認知度の結果について

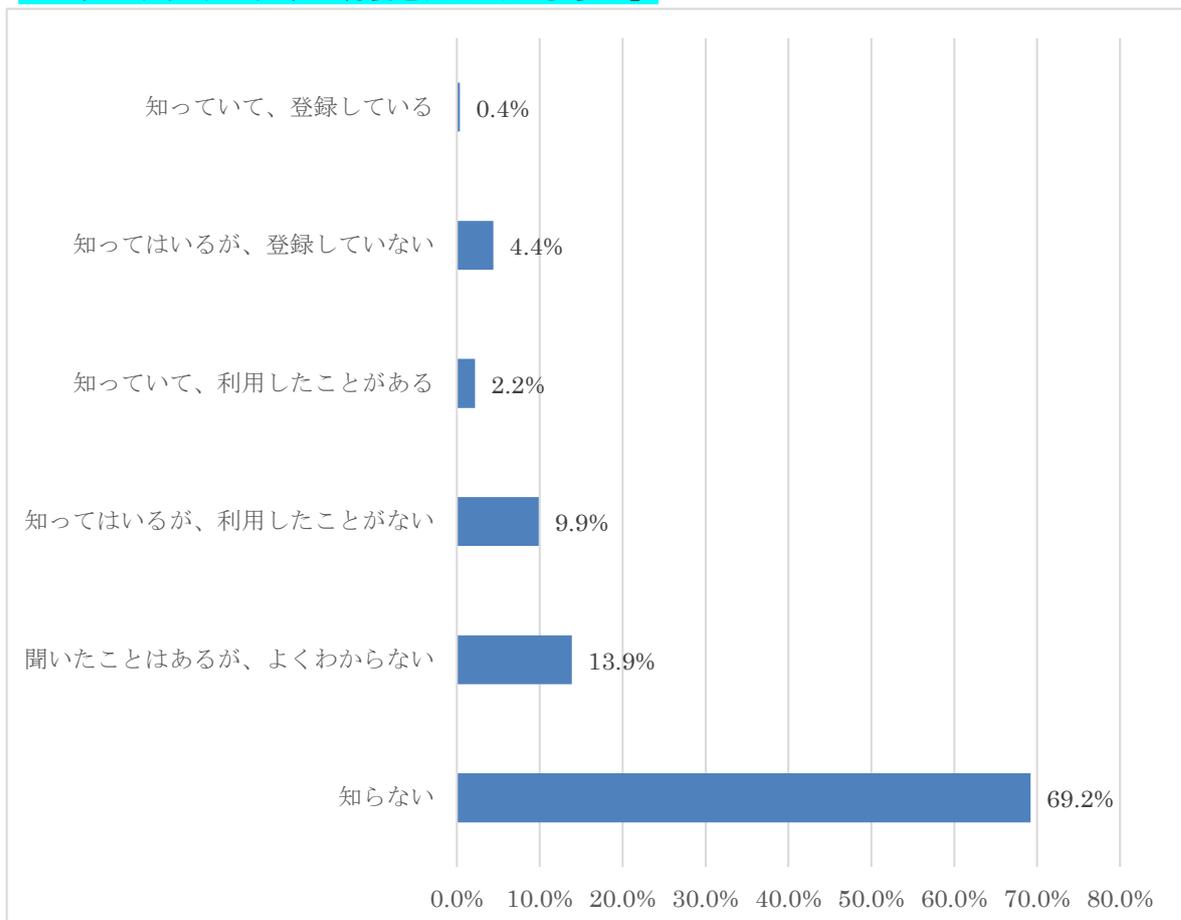
半田市では、小中学校、幼稚園、保育園、公民館などからの依頼に対し、事前に登録された一般市民の方が、特技を生かして、講師となって教える市民ボランティア制度を行ってきています。

令和元年度では、ゲストティーチャーとしての登録者数が183件と着実に数を増やしています。しかしながら、「ゲストティーチャー制度を知っていますか」の問いに、「知らない」と答えた市民が69.2%を示し、認知度が高いとは言えない現状であることがわかりました。

「知らない」と答えた市民に、いかにわかりやすく、そして目に留まるような宣伝活動を行っていくことも大切になってくると考えられます。

また、「知っている、登録している」市民が0.4%であったことを受け止め、登録するための手順や選考方法などを含め、市民にわかりやすく、そして申し込みしやすい環境づくりをすることも大切になってきます。

★「ゲストティーチャー制度を知っていますか」



今後の方向性について

「生涯学習活動をより盛んにしていくために、半田市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか」の問いから見えてきた市民の声と、今までの結果の分析から見えてくる方向性は以下の3点と考えられます。

一つ目は、自分づくりのための学びの応援

ライフステージに応じた学習が提供できるよう、学習コンテンツの充実、在宅でも学べる環境を作ることで、学びとつながる自分づくりを応援します。

二つ目は、人づくりのための学びの応援

講師を含め参加者がつながる交流の場や、継続的な学習ができる学びの循環サイクル、自主的な講座開設ができるシステムづくりの確立をすることで、仲間とつながる人づくりを応援します。

三つめは、まちづくりにつながる学びの応援

地域にある各団体との連携の充実を図り、地域とつながるまちづくりを応援します。

★「市民の生涯学習活動をより盛んにしていくために、半田市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか」（複数回答）

